

(1) 心不全高齢者の骨格筋機能特性：パイロットスタディ

理学療法学科 板垣篤典

研究の背景

- ◆ 心不全高齢者においては心機能では無くむしろ骨格筋障害や運動耐容能の低下が予後に強く影響することが明らかにされている。
- ◆ 心不全高齢者の骨格筋機能障害の特徴を認識するためのエビデンスは不十分であり、簡便に評価することのできる臨床指標は確立されていない。

研究の目的

- ◆ 心不全高齢者の骨格筋機能障害の特徴を認識すること及びその評価指標としての骨格筋エコー診断の有用性を検証すること。

研究方法

- ◆ 地域在住高齢者を対象として、大腿直筋及び中間広筋の筋厚及び骨格筋エコー輝度を取得し、ACCF/AHA (American College of Cardiology Foundation/ American Heart Association) 分類による心不全ステージとの関係性を横断的に検証した。

成果

- ◆ ACCF/AHA分類による心不全ステージが進展する程、筋厚が低下しエコー輝度が上昇する傾向が確認された。
- ◆ 筋厚、骨格筋エコー輝度を目的変数とした重回帰分析の結果、ACCF/AHA分類は独立変数として同定された。